# ヒトiPSレポーター細胞を用いたシグナルかく乱を指標とする発生毒性試験法

研究代表者 福田 淳二 横浜国立大学、KISTEC

共同研究者 大久保 佑亮 国立医薬品食品衛生研究所

共同研究者 中島 芳浩 産業技術総合研究所





## 催奇形性と発生毒性試験

#### 胎児に暴露される種々の化学物質



#### サリドマイドによる悲劇



Rehman, W., Arfons, L. M. & Lazarus, H. M. *Ther. Adv. Hematol.* 2, 291 (2011)

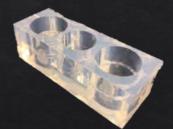
#### 発生毒性試験



- × コスト・試験数
- × 動物の犠牲(3Rs)
- ×種差

#### in vitro 発生毒性試験



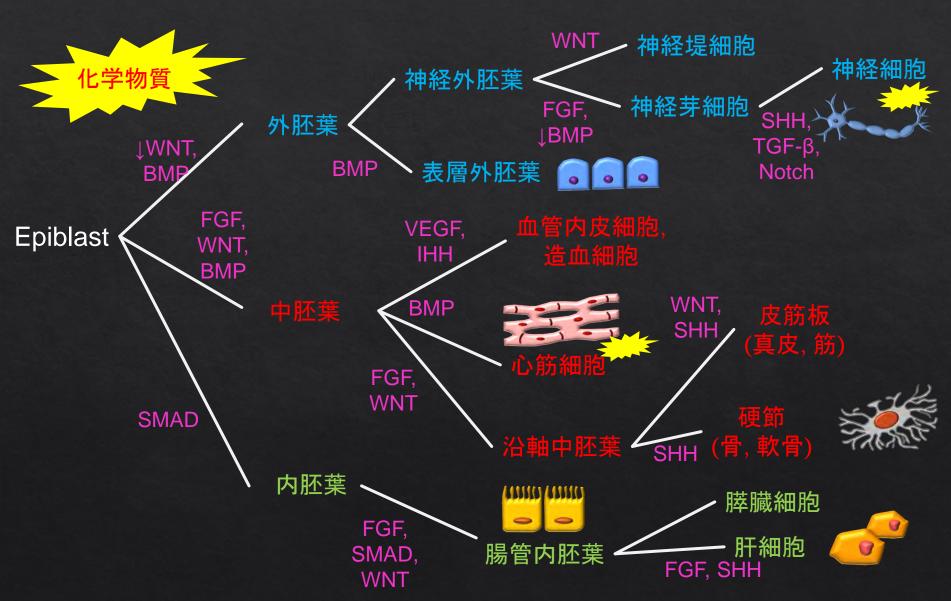


MPS, Body on a chip

- 〇 ハイスループット
- 〇 動物実験代替
- 〇ヒト細胞の利用

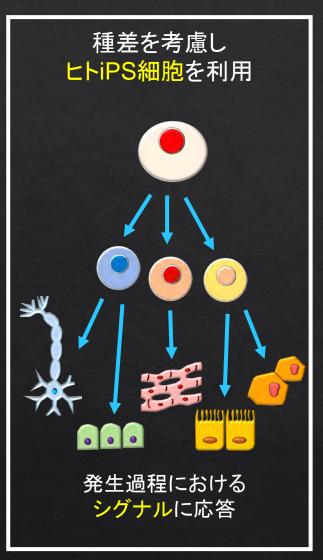
## 先行研究 (mEST\* & Hand1-EST\*\*)と本研究

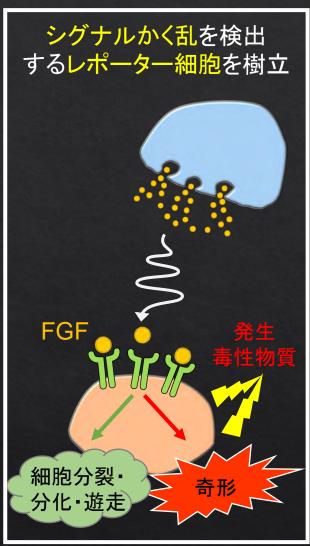
\*Baek, D. H. et al. J. Appl. Toxicol. 32, 617–626 (2012) \*\*Suzuki, N. et al. Toxicol. Sci. 124, 460–471 (2011)



化学物質がシグナル伝達経路へ及ぼす影響を評価し、発生毒性物質を予測

## 本研究のアプローチ





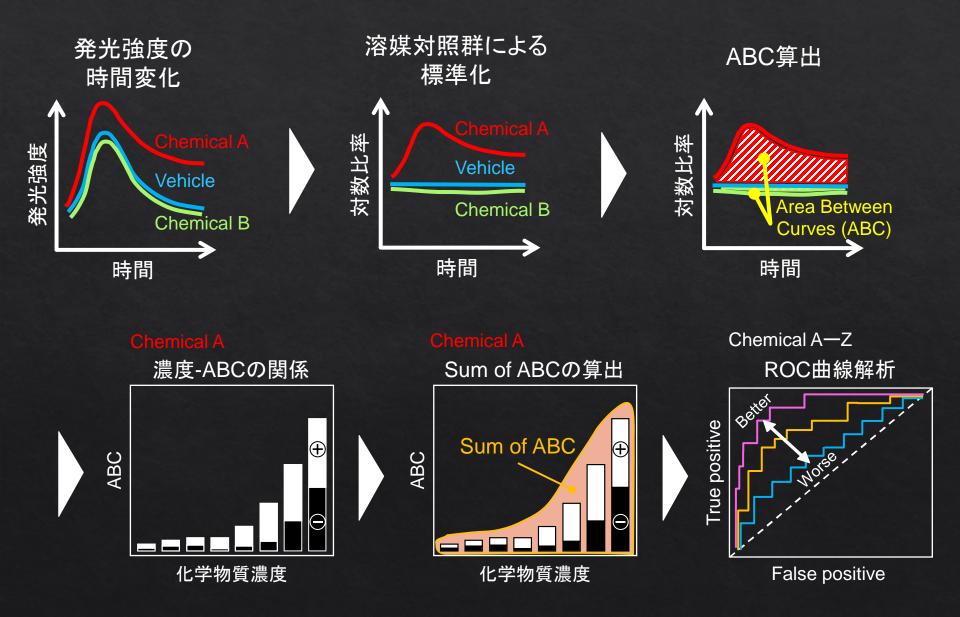


ヒトにおける発生毒性物質を予測可能なスクリーニング法の開発

# データ処理



- S. Kanno, et al., *iScience*, 2022
- S. Kanno, et al., *StarProtocol*, 2022
- S. Kanno, et al., *JBB*, 2022



# 使用した化学物質

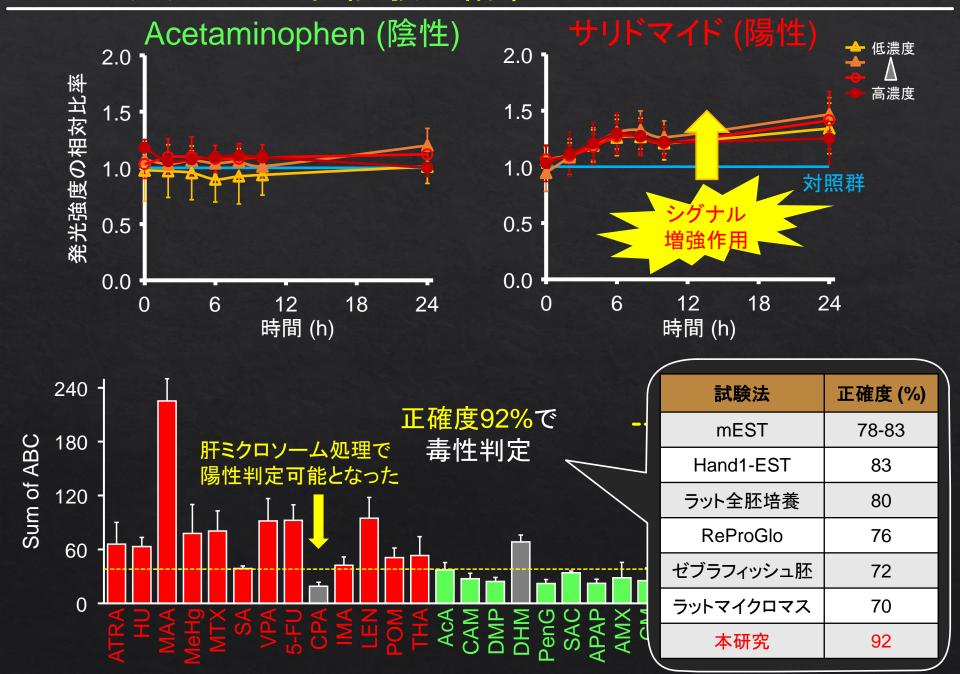


- S. Kanno, et al., *iScience*, 2022
- S. Kanno, et al., *StarProtocol*, 2022
- S. Kanno, et al., *JBB*, 2022

## ECVAM、ICHに記載の化学物質

発生毒性物質	非発生毒性物質
all-trans-Retinoic Acid (ATRA)	Acrylamide
Hydroxyurea	D-Camphor
Methotrexate Hydrate	Dimethyl Phthalate
Methoxyacetic Acid (MAA)	Diphenhydramine Hydrochloride
Methylmercuric Choloride (MeHg)	Penicillin G Sodium Salt
Sodium Salicylate	Sodium Saccharin
Valproic Acid	Acetaminophen
5-Fluorouracil	Amoxicillin
Cyclophosphamide (CPA)	Cimetidine
Imatinib	Erythromycin
Lenalidomide	Hydrochlorothiazide
Pomalidomide	Sulfasalazine
Thalidomide	

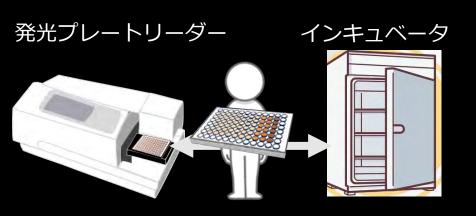
# FGFシグナルかく乱試験の結果

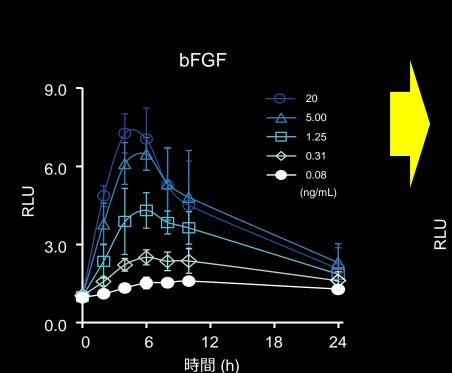


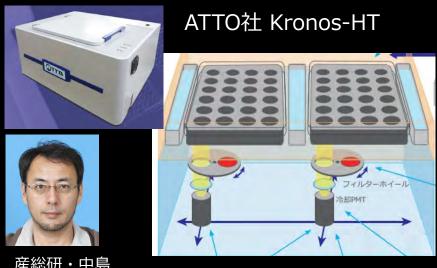
# リアルタイム発光測定による高精度検出

#### 手作業による発光計測

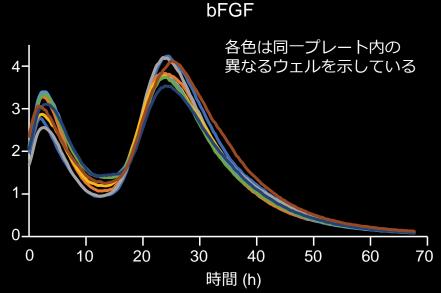
#### リアルタイム発光測定装置





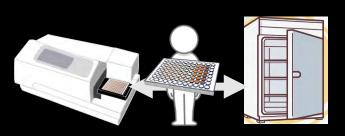


産総研・中島



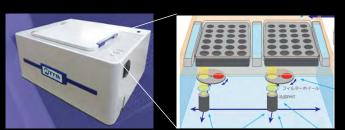
# 濃度依存的なシグナル攪乱ダイナミクス

手作業による発光計測

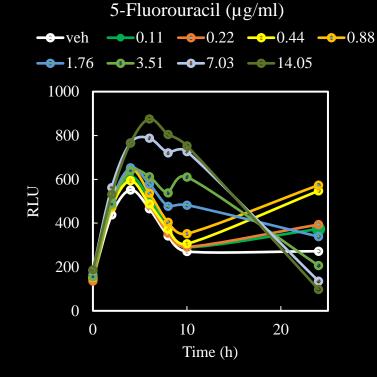


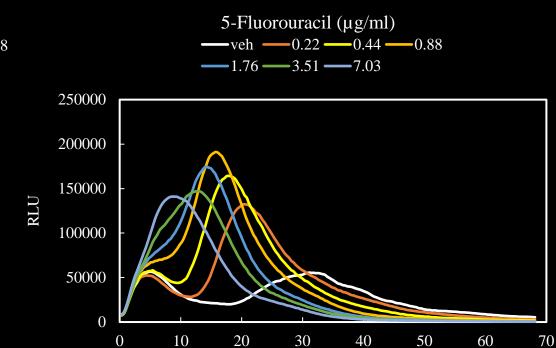


#### リアルタイム発光測定装置



#### 発生毒性物質(5-Fluorouracil)による攪乱

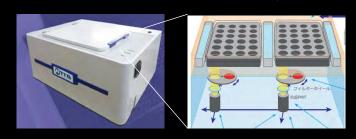




Time (h)

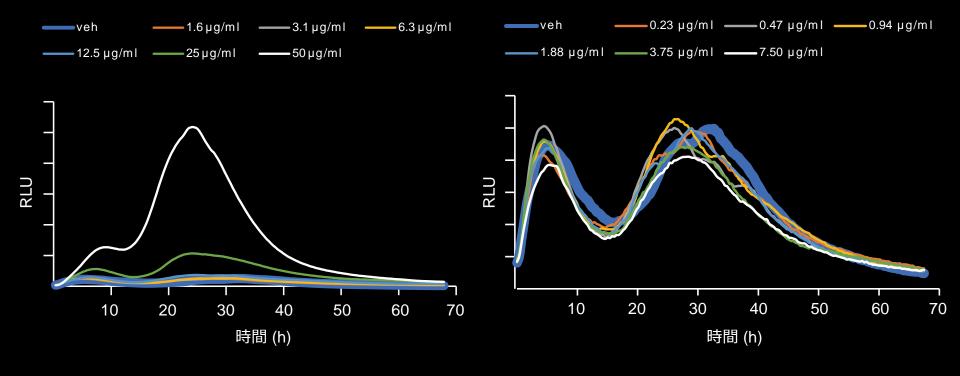
# 濃度依存的なシグナル攪乱ダイナミクス

リアルタイム発光測定装置



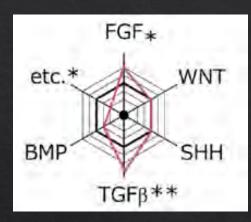
## 発生毒性物質(Valproic Acid)

#### 非発生毒性物質(Cimetidine)



# FGFシグナル以外のヒトiPSレポーター細胞株の樹立

#### バッテリ試験構築



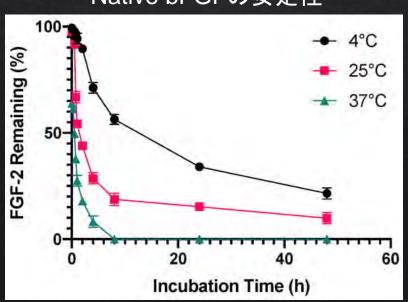
WNT、SHH、BMP、TGF-bなどのレポーター細胞は樹立済み。

問題は、シグナルを刺激するリガンド探索。

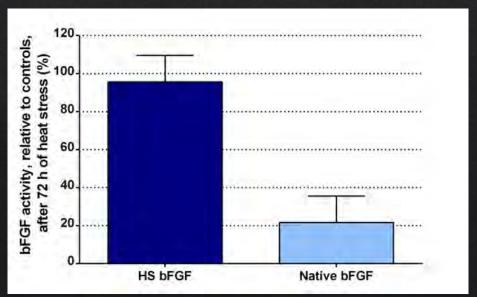
国衛研・大久保



#### Native bFGFの安定性



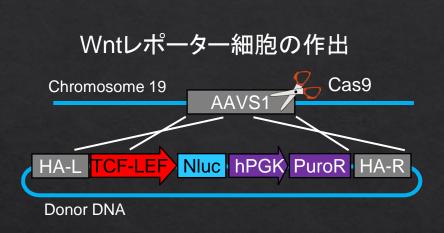
#### Human Heat Stable bFGF

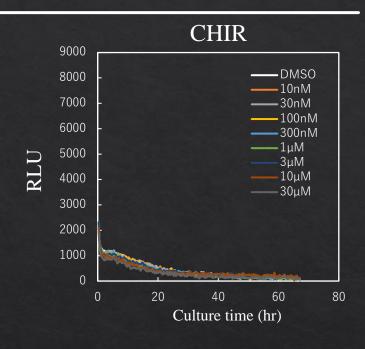


LR. Benington, et al., Pharmaceutics, 2021

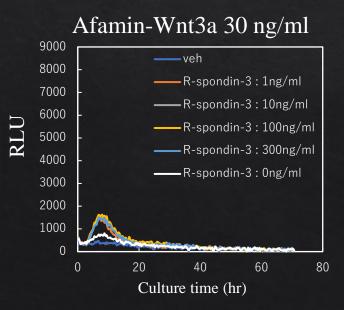
Thermo Fisher

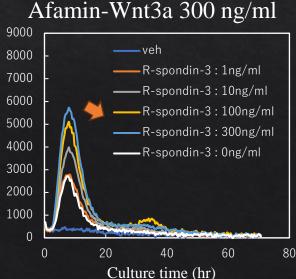
## WntシグナルiPSレポーター細胞

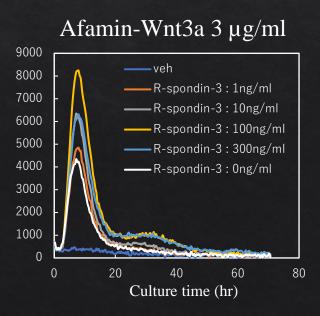




## Afamin-Wnt3aとR-spondin-3の組み合わせ







## まとめと今後

- 1)リアルタイム発光測定により、詳細なカイネティックアッセイができることを示した。 2)Wntシグナルレポーター細胞を樹立し、使用可能なリガンドを見出した。
- FGFシグナル以外のレポーター細胞の樹立 **WNT** 神経堤細胞 JWNT, 神経外胚葉 **BMP** 神経細胞 神経芽細胞 **FGF** SHH, **Epiblast** 外胚葉 **JBMP** TGF-β, **BMP** 表層外胚葉 FGF, Notch WNT, **BMP** 血管内皮細胞, VEGF, 造血細胞 IHH 皮筋板 中胚葉 WNT, **BMP** (真皮, 筋) SHH 心筋細胞 **SMAD** バッテリー試験法 FGF, **WNT FGF** 沿軸中胚葉 (骨,軟骨) 内胚葉 etc. .Wnt Annoanno 膵臓細胞 FGF, SMAD, TGFb **BMP** 肝細胞 腸管内胚葉 **WNT** FGF, SHH →農薬への適用

**VEGF** 

## その他の研究計画

#### 胚葉分化細胞を用いたレポーターアッセイ

未分化iPS細胞では、レセプターの発現そのものが低い場合がある。そこで、3胚葉程度まで分化誘導する。または胚様体の形成させる。

#### <u>多色化による内部標準の利用</u>

被験物質による試験系自体への影響(例:ルシフェラーゼ活性の阻害)を検出し、実験アーティファクトを排除する。

### <u>シグナルネットワー</u>クの<u>解</u> <u>析</u>

この試験法の分子メカニズムをより詳細に理解する ため、トランスクリプトー ム解析を行う。

